デジタルニューディール研究所

出口俊一氏からの応援メッセージ

●出口俊一氏／プロフィール
1975年3月:獨協大学経済学部卒、産経新聞社編集局入社、編集局社会部、警視庁、都庁キャップを歴任。「世界の建築家・丹下健三」でパリ、ニューヨークなど海外歴訪取材。日本工業新聞出向:編集局地球環境室次長、電子メディア部長就任。02年4月:経済産業研究所出向、大学発ベンチャー支援サイトを開設。10月から毎週DNDメルマガを配信。(株)デジタルニューディール研究所設立、代表取締役社長就任。桧家住宅取締役、金沢工業大学客員教授。ジャーナリスト。

被災地をめぐって EMという希望の光

研究者・技術者のためのインターネット情報サイト「デジタルニューディール」。このサイトでは比嘉照夫教授の連載コーナーが人気を呼んでおり、EMによる被災地支援レポートもメールマガジンとして発信。そこで今回は自ら現地で取材を敢行した(株)デジタルニューディール研究所 代表取締役社長の出口俊一氏からその報告とEMに対する熱いメッセージをお届けします。

先日、東京・芝公園のUネットオフィスで、久々に比嘉照夫先生と面談し、この度の5日間にわたる被災地の取材、それを記事にしたDNDメルマガの反響等をご報告申し上げた。

あんな長文のメルマガを比嘉先生が丹念に読んでくださっていることを知って恐縮した。その席で、ご協力いただいたEM関係の皆様への感謝をもお伝えした。先生は、終始、にこやかに笑みを浮かべて聞いてくださっていた。

5月中旬に、単身、滅失した被災地を回った。私がまず目にしたものは絶望の光景でした。足元から崩れそうになる。ヘドロから花が咲くように、そこにEM技術という希望の光が差し込んでいた。EMによって被災地が再生することを実感した。もっとEMが広く普及しないといけない、と思った。

漁港では電源が落ちた冷凍庫から大量の魚が路上に散乱していた。焦土と化した住宅街は死臭すら漂っていた。これから、どうするのだろう、と思うと気持ちが縮んだ。どの街も流されて何も残っていない。鎮まりかえって不気味だった。路上の幼い子の縫いぐるみをみつけて胸が詰まった。

この容赦ない現実に、東北の被災地のEMの皆さんは、震災直後から立ちあがっていた。EM技術で、復興をと気構えていた。学校、地域に浸透し、悪臭対策や環境浄化、塩害で絶望視されていた田んぼや花卉栽培の畑に効果を発揮していた。

がんばろう、東北!被災地への思いは誰も一緒。が、被災者が、被災地で、人助けに奔走していた。主役は、EMの皆さんでした。街の環境を守ろう、地域の再生を図ろう、との思いが強い。EMの皆さんの健気な姿に心打たれ、首の黄色いタオルは乾く暇がなかった。

比嘉先生に私が、「EM技術は、人間のエンジンみたいだ。被災地ではEMを抱えながら明るく活躍していました」とご報告した。先生は、「ようやく気づかれましたか…」というようなそぶりでうなずかれていた。先生に、お目にかかったのが新聞社時代、もう15年も歳月を刻んでいる。イベントや雑誌等で先生にご登場いただいた。

さて、この現場報告を振り返ると、岩手の高橋比奈子さんの手配で、盛岡から宮古、大槌、山田と車で移動した。山田南小で後藤嘉男さん、高校で池田壽和さんに案内された。ご高齢だが、お元気な方々でした。そして、釜石の知人宅に2泊、野田市長のインタビューもやった。釜石から陸前高田を抜けて気仙沼へ。

気仙沼では、自ら被災し、家や店舗が流された足利英紀さん（67）が、地域で中心的に活躍していた。名産のフカヒレ工場の再生に立ち上がった。EM生活の社長、比嘉新さんが何度も応援にかけつけた。ある時は、乗ってきた乗用車を被災者に提供し、自らは電車で次に移動した。人は見えないところで真価を発揮するものかもしれない。足利さん宅で一泊、真心のもてなしをうけた。奥様が、トマト、ナスなどの苗を私に持たせてくれた。あれから2ヶ月余り、庭に立派な実をつけ始めた。

気仙沼から石巻へ、石巻から仙台へ、途中、女川にもよった。数々の風景、数々の人の涙、忘れがたい。仙台市の蒲生地区で田植えに挑んだ「鈴木有機農園」の銀シャリ名人、鈴木英俊さんは、瞳が子供のように輝いていた。稲は順調に育っていた。鈴木さんに触れたメルマガに反響があり、記事が海外にまで拡散された。お隣の名取市閖上では、ひとりの主婦が立ちあがった。髙橋恵美子さん、塩害とヘドロに打ち勝つためにEMに助けを求めた。みやぎ代表の小林康雄さんらがチームを組んで対応した。髙橋さんは、ヘドロから希望の花を咲かせたい、そんな夢を胸に秘めて花卉農家を一軒一軒回った。この人の優しく聡明な人柄が評判に。

ある日、農水省の担当室長からメールが入り、ぜひ、名取の話をしてほしいと要請があった。比嘉先生にお伝えすると、花の会であっているかもしれない、官僚にもEMファンがたくさんいる、とおっしゃっていた。後日、お役所の担当者を現地にお連れした。事務局長の芝幸一郎さんに解説役でご同行をお願いした。帰り際、その担当官は、比嘉先生の名前を口にし「以前から憧れていた。花の会でお会いしたことがあります。よろしくお伝えください」と控えめに心情を吐露された。先生の指摘した通りでした。

千年に一度の大震災、個人的なことだが3・11から7キロ、体重が減った。最近やっと体重が戻ってきたが、疲れがどっと出た。しかし、次は、福島に入りたい。このめぐりあわせにある意味感謝し、ジャーナリストとしての使命を貫きたい。生きている限り人や社会のために生きる、それをあらためて決意した現場取材でした。

●DND（デジタルニューディール）とは
2002年経済産業省の経済成長戦略の一環としてスタートした研究者、技術者のためのテクノサイトで、産学官の信頼と協働で大学発ベンチャー起業を支援し、わが国のイノベーション創出に貢献しています。大学教授や民間エグゼクティブを中心に12000人のネットワークを構築し、人気の連載企画・比嘉照夫先生による『緊急提言、甦れ!食と健康と地球環境』をはじめ、さまざまな分野の一級の学者、研究者、経済産業省局長、アメリカ特許弁護士らも参加。出口編集長が担当する毎週水曜日配信のメールマガジンは、この秋で10年・430回余りとなり、各検索サイトでも上位にランキングされています。

デジタルニューディールの閲覧は	http://dndi.jp/
比嘉先生の連載は	http://dndi.jp/19-higa/higa_Top.php
DNDメールマガジンは	http://dndi.jp/mailmaga/bn.html
被災地から:画像でみる!	http://dndi.jp/311slideshow/index.html